



①町と協定締結している淑徳大学の学生が多数参加。スマホで写メを撮り、この日の思い出を記録と脳裏に残していた。②いも掘り以外にも小松菜・里芋などの「収穫体験」も実施。③土の感触と香りを楽しむことができるのは、先人が築いた大地の恵みのおかげだ。④堆肥となる落ち葉のもと、平地林散策。スタンプポイントでもある。⑤土の感触を楽しみながら長い畝を歩く。⑥さつまいもで自分だけの「ハンコ」を作るクラフトコーナー。⑦町で採れたさつまいもで作られたアイスが飛ぶように売れた。



遊ぶ、食べる、体験する。



家の皆さんの町への「愛情」が詰まったみよし野菜。それを手にした参加者の笑顔はまさに「世界」でした。



約440メートルという長い長いさつまいもの畝。自然と緑豊かな三芳町を象徴するような素敵な光景が辺り一面に広がります。

心地よい風が吹く武蔵野の大地、土の香りが参加者を包み込む――。
江戸時代から約360年受け継がれる「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を守り、先人の想いの詰まった畑で行われた

世界一のいも掘りまつり

800人を超える参加者が集まった今年のまつり。10月2日に行われたこの日の様子をお届けします。

